

Reizo Harako and Shiro Kondo
[Proceedings VIIIth International Congress
of Anthropological and Ethnological Sci-
ences, 1, 70-72, 1968.]

- 3) Anatomical variations of limb muscles in
primates from the viewpoint of locomotion.

Hidemi Ishida
[Proceedings VIIIth International Congress
of Anthropological and Ethnological Sci-
ences, 1, 334-335, 1968.]

- 4) A study on acclimatization of the Ainu
and the Japanese with reference to hunting
temperature reaction.

Shiro Kondo
[J. Fac. Sci., Univ. TOKYO, Sec. V, Vol.
III, 253-265, 1969.]

- 5) Case report on a Japanese monkey with
congenital malformation of the limbs.

Mitsuo Iwamoto and Momoki Hirai
[Primates, 11, 395-398, 1970.]

- 6) Morphological studies of *Macaca fuscata*.
II. Somatometry

Mitsuo Iwamoto
[Primates, 12, 1971.]

- 7) ニホンザルのバイベダリズムについて

石田英実・近藤四郎
[姿勢シンポジウム論文集, 1971, 姿勢研究所編]

- 8) A preliminary report on cold vasodilation
reaction of finger of macaques.

Shiro Kondo, Hiromi Tokura and Nori-
katsu Miwa

[人類学雑誌, 79, 1-1, 1971]

学 会 発 表

- 1) An anthropological study of high alti-
tude adaptation in the Peruvian Indians.

近藤四郎・原司令三
第8回国際人類学民族学会議 (1968)

- 2) Anatomical variations of limb muscle in
primates from the viewpoint of locomotion.

石 田 英 実
第8回国際人類学民族学会議 (1968)

- 3) 霊長類の寒冷血管反応

登倉尋実・近藤四郎
第23回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1969)

- 4) 指紋における渦状紋隆線の渦巻き方向について

岩 本 光 雄

第23回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1969)
5) サルの眼窩の構成について——とくにメガネザル
の系統的位の考察を焦点として——

岩 本 光 雄

第24回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1970)

- 6) 霊長類における二足立位姿勢の筋電図による研究

石 田 英 実

第24回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1970)

神経生理研究部門

時実利彦・久保田競

二木宏明・松波謙一

研 究 概 要

- 1) 前頭葉の機能の神経生理学的研究

時実利彦・久保田競・二木宏明・酒井正樹*
岩本隆茂**

前頭葉が関与している行動の一つである遅延交代反
応をアカゲザルに学習させ、その時の前頭葉主溝部、
尾状核、視床、背内側核などのニューロン活動を解析
して「行動の神経生理学的機構」を明らかにしよう
としている。

- 2) 随意運動の発現機序の研究

A. 随意運動発現における運動野の役割

久保田競・弓矢治秀***

筋からの情報を断った状態（後根切断）で音を条
件刺激として手でバルーンをにぎるという防御条件
反応を学習させ運動野の錐体細胞、非錐体細胞と筋
活動の相関々係をしらべている。なお、関係する細
胞活動がみられた場合、その部位で微弱電流を流し
ておこる筋運動をしらべ対応させている。

B. 眼球運動発現に関与する中枢機構の解析

松 波 謙 一

自発性および学習性の眼球運動（水平、垂直方
向）と相関のある視床内、外部のニューロン活動の
性質をしらべ、眼電図（EOG）とユニットとの時
間関係から眼球運動に対して果す役割を考えてい
る。

研 究 発 表 (1968年4月～1971年3月)

論 文

- 1) Precentral cortical unit activity and jaw-
movement in chronic monkeys.

Kisou Kubota & Hiroaki Niki

[Ed. by R. Dubner & Y. Kawamura, Mech-

* 京都大学大学院学生

** 日本学術振興会、昭和46年度流動研究員

*** 京都大学大学院学生

anisms of oral-facial sensation and movement. Appleton-Century-Crofts(In Press)]

[日米科学協力事業によるシンポジウム: Conference on mechanisms of oral-facial sensation and movement, Honolulu, Jan. 19~22, 1970.]

- 2) Prefrontal cortical unit activity and delayed alternation performance in monkeys.

Kisou Kubota & Hiroaki Niki

[J. Neurophysiology, 34, 337-347, 1971.]

学 会 発 表

- 1) かみくだき筋運動 (mastication) における皮質運動野細胞の関与

久保田 競・二木 宏明

第46回日本生理学会 (1969)

- 2) サルにおける prefrontal cortex の細胞活動と遅延反応

二木 宏明・久保田 競

第47回日本生理学会 (1970)

- 3) サルにおける三叉神経中脳核内の筋紡錘活動単位と随意運動

松波 謙一・久保田 競

第47回日本生理学会 (1970)

総 説

- 1) 生物科学における霊長類に関する研究の位置

時 央 利 彦

[科学, 39, 390-392 (1969)]

- 2) サルと運動機能の神経生理学的研究

久 保 田 競

[神経研究の進歩, 14, 3, 561-556 (1970)]

- 3) 慢性状態でニューロン活動を記録するための簡易モンキーチェア の作り方

酒井正樹・二木 宏明・久保田 競

[神経研究の進歩, 14, 3, 604-606 (1970)]

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの生息状況の調査

川村俊蔵・和泉 剛*

野外研究および研究用サルの供給問題に関係ある生息状況の把握は、研究所の未来像として浮びつつある研究保護林設置の希望と結ぶ、地味であるがきわめて基本的な作業である。このため1970年度には、計33日間、次の地方で調査を行った。鈴鹿山脈南部および中部、木曽山地(とくに中央アルプス西面)、台高山脈東面、京大芦生演習林、その他、和歌山県椿、比良山系、美濃山地など。とくに、木曽山地については、工藤樹一、平津久、増井恵一の3人の共同研究員との合同調査が行なわれた。

- 2) 自然保護に関する作業

川 村 俊 蔵

IBP-CTSの班員として、とくに近畿地方に関し、自然とその破壊の現状把握を行うとともに山林施業、公園などの諸計画資料を入手し、大局および部分問題について保護のための将来構想を練った。また1と関連して、千葉県高宕山・京都府嵐山におけるサルの保護を図った。その他兵庫県東ノ山の調査を行った。

- 3) 幸島ニホンザル自然群の社会変動に関する研究

河 合 雅 雄

- 4) ニホンザルの性行動に関する社会学的研究

河 合 雅 雄

- 5) 東アフリカにおける森林性霊長類のテレメトリ法による生態学的研究

河 合 雅 雄

- 6) IBP-PT「陸上動物の個体数現存量および生産力測定法の研究」に参加、テレメトリによる方法の開発

河 合 雅 雄

- 7) 霊長類の社会生態学: 社会性、社会機構が種の生存に対してもつ意味の評価と、進化的位置づけ

東 滋

1. ニホンザルの生態地理、積雪地にすむニホンザルの生態学、社会学

2. 霊長類の自然保護に関する生態学

3. 熱帯降雨林のサルの生息環境としての評価(種間関係と人口動態)

- 8) 高等霊長類の集団の維持機構とその進化の諸問題

鈴 木 晃

* 京都大学霊長類研究所研究員